



▲漫才を披露するパンクブーブーの2人

第2弾週末よしもと ほっこりお笑いライブ
4月14日(土)、市民会館で『週末よしもとほっこりお笑いライブ』（文化・スポーツ振興財団主催）が行われ、パンクブーブーや楽しんご、くまだまさしなどが漫才やコントなどで、観客を笑いの渦へ巻き込みました。会場には家族連れの観客も多く、子どもたちは手作りのうちわや、元気なりアクションで出演者たちを盛り上げ、会場は一体感に包まれていました。また、登別ブランド推奨品などが当たる大抽選会でも出演者たちは軽妙な話術で観客を魅了。最後まで笑いが絶えませんでした。

4 / 14

縄文時代の生活の様子を想像

縄文出前講座

4月13日(金)、鷺別小学校で『縄文出前講座』（市主催）が開かれ、同校の6年生約40人が参加しました。

この講座は、市内で発掘された土器などに触れながら、縄文時代への理解を深めてもらうと毎年開催されています。

初めに、講師を務める市の菅野修広学芸員が、縄文人の生活や文化、食べ物、顔の特徴を解説した後、子どもたちは、市内で出土した土器や矢尻を手に取り、感触や重さなどを確かめながら、縄文時代の生活の様子を想像していました。

4 / 13



▲縄文土器に実際に触れる子どもたち

元気に育てると 願いを込めて

大空を泳ぐこいのぼりと五月武者人形展

4月8日(日)から、郷土資料館に約70匹のこいのぼりが掲げられ、道行く人の目を楽しませています。

こいのぼりは、5月5日のこどもの日を前に、郷土資料館ボランティアグループ『SLG』の協力を得て、毎年この時期に掲げられているもので、市民から寄贈されたものを中心に、黒や赤、青のマゴイ、ヒゴイなどが大空を勢い良く泳いでいます。

これに先立ち、郷土資料館では、4月1日(日)から五月武者人形展も開かれ、昭和初期製作のものをはじめ、市民から寄贈された武者人形などが展示されています。

この催しは5月5日(土)まで行われ、その間、小・中学生は郷土資料館に無料で入館できます（5月1日(火)・2日(水)は休館日）。

4 / 8



▲大空を泳ぐこいのぼり